

第5回サウンドヒーリング研究会 2011年11月6日(日)ゆうばうと5階
テーマ「自発的治癒力を発揮する」未来医療への架け橋

- 12:30~ 開場・受付開始
- 13:00~ 開会の言葉【中村泰治 昭和大学名誉教授(サウンドヒーリング協会会長)】
- 13:10~ 特別講演「自発的治癒システムを信頼する医療」【長田夏哉 (田園調布長田整形外科院長)】
- 14:15~ 活動報告
 - ♪「サウンドヒーリングで体が変わった、広がる喜びの輪」
【坪内祐太郎・坪内美裕 サウンドヒーリングCoo経営(サウンドヒーリング協会認定セラピスト)】
 - ♪「八潮駅つばめクリニックにおけるサウンドヒーリングの歩み」
【藤本梨恵 八潮駅つばめクリニック サウンドヒーリング専属担当(サウンドヒーリング協会認定セラピスト)】
- 14:45~ 休憩10分
- 14:55~ 感謝とご報告【喜田圭一郎(サウンドヒーリング協会理事長)】
- 活動報告とこれからの社会におけるサウンドヒーリングの役割
- 15:15~ サウンドヒーリング ワークショップ【「Resonance レゾナンス」ニーニヤ(ボイスプレイヤー)】
- 16:00 閉会

Program

うつへしま福島
長崎から福島への架け橋



ふくしまの夕日

東日本大震災 サウンドヒーリング協会の試み
喜田圭一郎

2011年3月11日に起きた東日本大震災は、自然の力の前では人間の力が如何に非力であるかを思い知らされた。そしてこの震災は私たち日本人に対し警鐘ともいえるメッ

セージがあると感じた。今までの生き方を、一人一人が見直し、変化させる事が大切なのではないか、それが犠牲となつた方々への最大の供養になるのではないかと思った。

震災後、サウンドヒーリング協会として何ができるかを考え、先ず被災された地域の災害FM局へ心がやすらぐ、音楽のCDをお贈りした。災害FM局は各地域の地方自治体が

臨時に開設した局もあり、どんな音楽を緊急放送の合間に流せばいいか、苦労されていたが、あまり感情に訴えず、空間を心地よくする当協会が推薦する音楽は重宝されたようだった。

そして、東北地区の被災地全体ではなく、地震と津波と原発と風評被害に苦しむ福島県に絞り込んで出来る事を検討し、体感音響機器の寄贈やサウンドヒーリングをさせて頂くきっかけを探した。以前お世話になった元福島県庁のWさんやSさんにご相談し、受け入れてくれる地域や担当課などを模索したが、ご尽力を頂くも混乱の中でなかなか県庁からご返事がなかった。

3月の下旬、長崎サウンドヒーリング推進会のお一人西村百合子さんと電話でお話する中、思わぬ事を聞いた。福島原発事故の医療チームである吉田浩二さん(長崎大学病院、看護師)が偶然奥様と一緒にサロンに来られ、待っている間に「聴くだけで体が変わるサウンドヒーリング」の本を読まれた。そして体験され、今、福島に必要なものはこのサウンドヒーリングだと話されたという。吉田さんの電話番号をお聞きし、すぐに電話を入れてみた。吉田さんは放射線専門の緊急医療チームとして、長崎大学から支援チームとして原発の敷地内に入り医療支援を行なっているという。サウンドヒーリングで福島に援助をさせて頂きたい申し出を快く受け入れてください、先ず吉田さん宛にサウンドヒーリングの機器やCDなど長崎大学に送り、福島県に持ち込んで頂く事になった。

この吉田さんとの偶然のご縁から、福島県立医科大学看護学准教授 大川貴子先生や長崎大学から来られた福島県立医科大学副学長の山下俊一教授などとご縁が更に繋がり福島で定期的に活動させて頂く、足掛かりができた。福島県立医科大学のボランタリースタッフの一員に加えて頂き、相馬市保健センター、仮設住宅の集会所などでボランタリーと同時にサウンドヒーリング機器を活かした心と体のケアをさせて頂いている。仮設住宅での被災者の方々にさせて頂くサウンドヒーリングはこちらも勉強になるが皆様

長崎大学病院看護師 吉田浩二さん
長崎大学大学院 小野綾子さん 他 長崎推進会の皆さんと

体が軽くなるととても好評だ。

10月には福島県立医科大学大川先生からのご相談で相馬市の仮設住宅に住む方々への心のケアグッズとしてCDを検討したいとお話を頂き、3・11後、制作した Infinite Lights(高橋全)とNiña(ニーニヤ)のCDを合わせて1,500枚を寄贈させて頂いた。サウンドヒーリングの音楽が福島で役立てて頂く機会を得ることが出来た。ありがたいことだ。2012年も定期的に福島に行き、医科大学のチームとして福島の方々のために協会としてできる事をコツコツさせて頂くつもりだ。自分の技術と心を磨きに行ってみようと思われる方は一緒にサウンドヒーリングボランタリーに行きましょう。

